



Bundesministerium
für Umwelt, Naturschutz
und nukleare Sicherheit

[🏠](#) > [Presse](#) > [Pressemitteilungen](#) > [Anteil erneuerbarer Energien im Verkehrssektor soll deutlich steigen](#)

2021年2月3日

Schulze : 自然を破壊することなく気候を保護する燃料を推進しています



© マルプ-stock.adobe.com

連邦内閣は、運輸部門における再生可能エネルギーに関する新しいガイドラインを採用しています

連邦環境大臣のSvenjaSchulzeの提案により、連邦政府は本日、運輸部門における再生可能エネルギーのシェアを2030年までに28%に増やすことを決定しました。これは、ドイツがEUの目標である14%をはるかに上回っていることを意味します。グリーン水素、新しい充電ステーション、食品ではなく残留物から得られる高度なバイオ燃料に対するより強力なインセンティブに加えて、法律の変更により、パーム油から作られたバイオ燃料を段階的に廃止することも規定されています。

連邦環境大臣SvenjaSchulze：「交通の気候目標を達成するには、ドイツでより近代的でクリーンな技術が必要です。気候に優しい燃料の促進に関する法律により、連邦政府は温室効果ガスを実際に削減するための効果的な手段を作成しています。ガス排出量しかし、私たちはタンクにもっと盲目的に代替燃料を入れたいだけではありません。原油に取って代わるものが同時に熱帯雨林を破壊してはなりません。効率的で手頃な価格で気候を保護する燃料を促進したいと思います。自然を破壊することなく。」

法改正により、運輸における再生可能エネルギーに関するEU指令（RED II）が実施され、2030年には運輸部門の総エネルギー消費量の14%を占める必要があります。ドイツ政府は、これらのEU要件を大幅に上回り、その割合を28%に増やしたいと考えています。ドイツは、連邦排出規制法の温室効果ガス削減割当（GHG割当）によってこれらのEU要件を満たしています。THGクォータ、鉱油会社は、現在、燃料の温室効果ガス排出量を6%削減する義務があります。これを行うために、彼らはグリーン水素、電気、または高度なバイオ燃料などの気候に優しいエネルギー製品を使用することができます。法改正によると、GHG割当量は2030年までに22%まで徐々に増加します。

2021年2月3日| トラフィック

温室効果ガス削減枠のさらなる開発

(www.bmu.de/gesetz/kabinettentwurf-eines-gesetzes-zur-weiterentwicklung-der-treibhausgasminderungs-quote/)

2021年2月3日| 気候保護

温室効果ガス削減割当量（GHG割当量）の調整を解決しました

(www.bmu.de/media/beschlossene-anpassungen-der-treibhausgasminderungsquote-thg-quote/)

個々の燃料オプションについて、連邦法でのREDIIの実装は次のことを意味します。

GHG割当内で、先進的なバイオ燃料の割合は、現在のゼロから2030年までに少なくとも2.6パーセントに増加する予定です。たとえば、高度なバイオ燃料は、わらや肥料などの残留物から得られます。この形態の「リサイクル」は持続可能であり、一定のレベルを超えると、GHGの割り当て内で二重クレジットを使用して促進する必要があります。使用済み食用油からの燃料、そして初めて動物の排泄物も考慮に入れることができます。

食品と飼料からのバイオ燃料の割合は現状のまま凍結されています。現在の上限である4.4%を超えることはありません。「食料や飼料作物からバイオ燃料を増やすことは私たちの選択肢ではありません。森林を伐採し、バイオ燃料のために自然を破壊することは容認できません。したがって、2026年までに環境に有害なパーム油をタンクから徐々に禁止します」とSvenjaSchulzeは言います。

グリーン水素をベースにした電気ベースの燃料は、輸送における気候目標に重要な貢献をすることを目的としています。しかし、グリーン電力は貴重な商品です。電気ベースの燃料に必要な生産能力もまだ作成する必要があります。したがって、連邦政府は、電気を直接使用するよりも効率的で気候に優しい代替手段がない場合、最初にグリーン水素を使用したいと考えています。産業に加えて、これは特に航空に当てはまります。GHGの割り当ての範囲内で、グリーン電力からの液体燃料（power-to-liquid、PtL）の最小割り当ては、2030年までに少なくとも2%まで徐々に増加することです。さらに、道路交通における電気ベースの燃料はGHGの2倍です-クォータが考慮されているため、より強力な資金が提供されます。さらに、製油所でのグリーン水素の使用は、二重計算によって促進されています。製油所は電気ベースの燃料以外の燃料も生産するため、グリーン水素を使用して他の輸送部門の温室効果ガス排出量を削減できます。

電気自動車での電気の直接使用は、GHG割り当て内のトリプルクレジットで促進されます。これは、全国的な充電インフラの運用に鉱油産業を間接的に関与させることを目的としています。その拡大は現在も納税者のお金によって大部分が賄われています。連邦政府は、電気がバイオ燃料とグリーン水素を市場から追い出すのを防ぐ保護メカニズムを法律に組み込んでいます。

連邦内閣の決定後も、法案は連邦議会で可決され、連邦参議院で可決されなければなりません。法律は、公布後の四半期の初日に発効します。法律の見直しは遅くとも2024年までに計画されています。議会での採択に続いて、連邦政府も関連する条例を開始します。この規制は、バイオ燃料とGHG割当量への電力のクレジットに関する新しい規制を実施します。

簡単に説明すると、温室効果ガス削減割当量とは何ですか？

2015年、ドイツの議会は、燃料のCO₂排出量を削減するために、温室効果ガス削減割り当て（GHG割り当て）を導入しました。温室効果ガスのクォータ、ミネラルオイルメーカーが義務付けられて減らすためにCO₂彼らの燃料の排出量を。化石燃料は、COの94.1キロの平均発する₂ gigajoule当たり。欧州連合はかつてこの平均値を決定し、設定しました。現在によるGHGのクォータ、ミネラル石油会社は少なくとも6%COが含まれている燃料を提供しなければならない₂純粋な化石燃料よりもギガジュールあたりの排出量が少なくなります。メーカーが選択する燃料は彼ら次第です。たとえば、気候にやさしい高度なバイオ燃料を追加して、燃料ミックスの平均排出量を効果的に削減できます。電気自動車での電気の使用や製油所での水素の使用も、燃料プロバイダーのCO₂バランスを改善するため、義務と相殺することができます。

Beschlossene Anpassungen der Treibhausgasminderungsquote (THG-Quote)

	2022	2023	2024	2026	2028	2030	
THG-Quote (CO ₂ -Minderung)	6,5 %	7 %	8 %	10 %	14,5 %	22 %	
Nahrungs- und Futtermittelpflanzen (Obergrenze, energetisch)	4,4 %						
Altspeiseöle und tierische Fette (Obergrenze, energetisch)	1,9 %						
	2022	2023	2024	2025	2026	2028	2030
Fortschrittliche Biokraftstoffe (Mindestanteil, energetisch)	0,2 %	0,3 %	0,4 %	0,7 %	1,0 %	1,7 %	2,6 %
	Mengen oberhalb des Mindestanteils werden mit Faktor 2 angerechnet.						
Wasserstoff und PtX-Kraftstoffe	Mengen werden mit Faktor 2 angerechnet (Raffinerien und Straßenverkehr)						
Strom	Mengen werden mit Faktor 3 angerechnet (Strom aus öffentlichen Ladepunkten, private Elektrofahrzeuge, Fahrzeugflotten)						
Luftverkehr	Quote für PTL-Kerosin (energetisch): 0,5 % in 2026, 1 % in 2028, 2 % in 2030						

(https://www.bmu.de/typo3temp/_processed_/f/5/csm__c__BMU__csm_tabelle_thg_minderung_653dfaa3ec_a657767e9b_952b0e509e.jpg)
©BMU

拡張画像の説明

Die THG-Quote, also die CO₂-Minderung, soll 2022 6,5 Prozent, 2023 7 Prozent, 2024 8 Prozent, 2026 10 Prozent, 2028 14,5 Prozent und 2030 22 Prozent betragen.

Für Nahrungs- und Futtermittelpflanzen liegt die energetische Obergrenze von 2022 bis 2030 durchgängig bei 4,4 Prozent.Für Altspeiseöle und tierische Fette liegt die energetische Obergrenze von 2022 bi2 2030 durchgängig bei 1, 9 Prozent.Fortschrittliche Biokraftstoffe sollen in den folgenden Jahren einen

energetischen Mindestanteil haben: Von 2022 0,2 Prozent, 2023 0,3 Prozent, 2024 0,4 Prozent, 2025 0,7 Prozent, 2026 1,0 Prozent, 2028 1,7 Prozent und 2030 2,6 Prozent. Mengen oberhalb des Mindestanteils werden mit Faktor 2 angerechnet.

Für Wasserstoff und PtX-Kraftstoffe sollen von 2022 bis 2030 die Mengen mit Faktor 2 angerechnet werden (Raffinerien und Straßenverkehr).

電気については、GHG割当量は、2022年から2030年までの3倍でカウントされます（公共充電ポイント、自家用電気自動車、車両フリートからの電気）。

航空では、PtL灯油のエネルギー割当量は2026年に0.5パーセント、2028年に1パーセント、2030年に2パーセントになるはずですが。

2021年2月3日 | プレスリリースNo.016 / 21 | トラフィック

短いリンク : www.bmu.de/PM9429